

「全鍍連」 2025年 2月号 悠々自適

全鍍連 評議員 山田 智彦 (株ヤマダエレホン金属 代表取締役社長)

「平安期の鎧」

源頼義の次男である義綱は、京都賀茂神社の神前で元服し賀茂次郎となった。

その賀茂次郎義綱の元服の祈禱に斉行(さいこう)された鎧着初式。

美しい色彩の平安王朝の鎧を纏い行列が参進
御本殿にて大神様の御加護神恩に感謝申し上げ
橘の香漂う御所殿にて厳かに鎧の儀
烏帽子や兜を授けられた
凜として清々しい子供たちの姿
この美しい日本の文化を子供たちに伝え残す
祈りの儀式

有職御鎧師 明珍阿古



YOROI-KIZOME

JAPANESE ARMOR EXHIBITION

美しい鎧をまどって 神様にあふひ

上賀茂神社

着初式 鎧の儀

2025/11/22 (土) 11時30分～

世界文化遺産
場所: 上賀茂神社(賀茂別雷神社)
京都市北区上賀茂本山339



もう何年か参加させて頂いている『上賀茂神社 着初式 鎧の儀』。

昨年も11月23日にお天気の具合が気になる京都市北区の上賀茂神社(賀茂別雷神社)にて斉行された鎧の儀に参加させていただきました。

七五三のとして参列されるお子様も多く、なかなか凜とした立ち振る舞いに癒される反面、一年の締めくりに向かい、自分を引き締め直さねばと毎度思います。

そんな毎年の事なのですが、お仕事で鎧の鍔金具なども作りはすれ、鎧の着用方法を全く覚える事が出来ず、顔馴染みの参加者に手伝ってもらう始末。正直、鎧どころか鎧直垂すら怪しく、なんとか草鞋は履けるようになった程度。斉行が始まる前から嘆いていると『そもそも鎧は人に着せてもらい、人に脱がせてもらうもの』と指南役の方が

声を掛けてくださりました。脱ぐ時ですらそうかと覚えの悪さを照れ隠していると、脱がせてもらう時は勝ち戦で劳われながら脱がせてもらうのと、討ち死にで追いはぎにあう時の2パターンがあるけどねと言い残して次の方のお手伝いに行かれました。鎧は現代でいうところの役職といったところでしょうか。出来れば、劳をねぎらっていただきながら役職を下ろしたいものです。

斉行の定刻となり、手口を清めていざ行かんと胸をはって歩き出し、ふと周りを見てみると今年は例年以上の観客の多さに身構えてしまいましたが、これもインバウンドの影響が大きいのでしょう。見渡す中では半数はアジア系ではなく残り半分のアジア系の方からも日本語ではない何かが耳に入ってきます。

しかし、人には適度な緊張感が必要だという事を後に痛感したのですが、人の多さにたじろいでいた自分は、いつの間にか前者に続いて胸をはって本殿へと向かっていました。

本殿の行きついたところは通常参拝などでは入れない場所で、厳粛に祈祷をいただきました。この時に毎年思う事があります。『来年の私は何をしているだろう。私の繋がりのある人はどうしているだろう。また来年もこの取り留めもない祈願とは違うこんな疑問を自問できるだろうか・・・』と。今年の着初式鎧の儀は11月22日(土)11時30分からです。